

編集後記

「精神科リハビリテーション」というテーマで特集を行うにあたっては、その方面の先駆者である松井紀和先生にゲストエディターとして企画を御願いした。方針は精神科にあまり関係の無い人達を対象とした、解説的なもの、という事である。

編集後記を書くための初校刷りを読みはじめて止められなくなった。岡上氏の論文は他からの無責任な批判には警告を発しながら、自省も忘れず、一見難しそうな語句が並んでいるようでありながら理解しやすい良い introduction である。精神科リハの特色で述べられている治療共同社会, housing program, 精神科救急ユニット, 等の言葉は私のような門外漢には大変新鮮で眼が開かれる思いがした。

井口氏らの病院内リハビリテーションでは院内使役を全て中止し、OT 中心の作業療法を主に行ない、DH, NH, 日曜外来, 等がリ

ハでは必要欠くべからざるものであるという点も大きな驚きで、しかも、それを実行して来られた事でさらに氏の論文に重みを加えるものだろう。石原氏の地域リハについても教えられた点が少なくない。例えば精神科地域リハの体系とか、保護工場の意味、ソーシャルクラブ等、大変明快である。湯浅氏の論文、蜂矢氏の論文、いずれも実績に裏づけられた立派なもので、この特集全体を見るならば単なる解説ではなく、日本における精神科リハビリテーション白書と言ってもよいような内容となった。執筆して下さった諸先生ならびに松井先生に深く感謝したい。

他に山口氏らの脳卒中患者の職業復帰に関する論文は多くの症例について調査した力作で、今後数多くの論文に引用されるものと思われる。

暑さの厳しき折、読者の御自愛を心から祈る次第です。
(明石 謙)

編集顧問

天 児 民 和
大 島 良 雄
小 池 文 英
杉 山 尚
砂 原 茂 一
津 山 直 一
水野 祥太郎

編集委員

明 石 謙
上 田 敏
大 井 淑 雄
大 川 嗣 雄
千 野 直 一
土 屋 弘 吉
横 山 巖
編集同人

赤 津 隆
今 田 拓
今 村 哲 夫
江口 壽榮夫
荻 島 秀 男
小 野 啓 郎
加倉井 周一
河 邨 文一郎
五 味 重 春
斉 藤 正 也
沢 村 誠 志
武 智 秀 夫
永 井 昌 夫
中 村 隆 一
野 島 元 雄
間 得 之
長谷川 恒雄
橋 倉 一 裕
福 井 関 彦
三 島 博 信
渡 辺 英 夫
飯田 卯之吉
田 中 照 子
小 川 孟
野 村 飲
小 島 蓉 子
笹 沼 澄 子
鈴 木 明 子
高 田 玲 子
林 玉 子
土 屋 和 夫
松 村 秩
(以上五十音順、敬称略)

(細田、鹿島)

次号予告 (第7巻第9号)

特 集 四 肢 麻 痺

頸髄損傷の上肢機能……………神奈川リハセンター 安 藤 徳 彦
頸髄損傷者の尿路管理とリハビリテーション

……………神奈川リハセンター 宮 崎 一 興

在宅頸髄損傷患者の実態……………国立大阪南病院 博 田 節 夫

四肢麻痺者に対する福祉関連機器……………都補装具研 加倉井 周 一

高位頸髄損傷の問題点……………神奈川リハセンター 大 橋 正 洋

講 座 リハビリテーションにおける治療 (9)

(痙直型脳性麻痺児の歩行訓練)……………聖母整肢園 梶 浦 一 郎

脳性麻痺の周辺 (3) (floppy infant)……………東京女子医大 福 山 幸 夫

資 料 統計でみるアメリカ・カナダのリハビリテ

ション・障害者福祉 (13) (カナダ)……………代々木病院 二 木 立・他